

今日の説教のポイント<マタイによる福音書7章7-12節>

①イエス様の主張には根拠がある。バビロン捕囚の中で起こったこと。

「求めなさい。そうすれば、与えられる」(7)。なぜこんなに強くイエス様は言い切られるのでしょうか？ ただのお思い込みで言われているだけなら、私たちはついて行くことはできません。イエス様は、旧約聖書に記されたある出来事とある言葉を思いながら語られています。「そのとき、あなたたちが私を呼び、来て私に祈り求めるなら、私は聞く。私を尋ね求めるならば見出し、心を尽くして私を求めるならば、私に出会うだろう…」(エレミヤ書29:12~14)。今日の箇所という言葉とほとんど同じです！ これは紀元前6世紀、神様に背いてバビロンに連れて行かれたイスラエルの人々に神様から与えられた言葉です。この時、祈りは聞かれ、イスラエル帰還が実現したのです。「試験に受かりますように」と祈る祈りとはだいぶ状況が違いますね。イエス様は、この歴史全体を、そして私たちの人生全体を、私たちのことを思って支配し給う父なる神様のことを考えているのです、知っているのです！ 「あなたがたもこの恵みの神様を知り、この神様に思い切り祈って生きる者となれ」と呼びかけておられるのです。そのために神様から与えられたお方なのです！

②天の神様を父と呼ばれるお方。このお方を通して私たちも同じ神様を信じる者に導かれる不思議。信仰の秘儀がここにある！

「パンを欲しがら自分の子供に、石を与えるだろうか」(9)、イエス様はそう言われます。しかし、現実にはもっとひどいことが起こっています。では神様も信じられないのでしょうか？ 考える順番が逆です。「人間の親がだめなら神様もだめ」ではなく、「人間の親にはそういうことがある、しかし聖書の神様にはないのだ」の順で考えなければなりません。イエス様はここでそのように考えておられ、「そのように考えて、この神様を信じて生きる者となりなさい」と勧めておられるのです。自分の親が愛に欠け、信じるなんてできない状況に生まれて来た人にとっての救いがここにあります！ すなわち、私たちには、私たちを愛して決して裏切らない「本当の父にして母なる神様」がおられることを知らされるからです！ この神様を知った者は、どんな親であっても、今度は自分がこの神様をその親に伝える者へと変えられて行くのです。